

□議員名：杉本 保喜

1 山陽小野田市の防災体制の問題点とその対策状況について

論点	<p>各地の災害とその対応をみて、山陽小野田市の現防災体制における次の状況を問う。</p> <p>(ア) 避難所運営における関係者（教育委員会等）との協議はどのように行われているのか。</p> <p>(イ) 災害時のボランティアセンター運営において、社会福祉協議会との協議等はどのように行われているのか。</p>
回答	<p>(ア) 拠点とする避難所の関係部署やボランティア団体等とその運営について早期に協議していきたい。指摘のとおり、避難所運営訓練を行政のほうから働きかけてその機会を設ける必要があると考える。また、避難所運営委員会を開く場合の住民の協力を念頭に検討していく。</p> <p>(イ) 今後の被災時においてセンターが支障なく設立できるよう社会福祉協議会と定期的に連絡・調整を行う機会を持ちたい。</p> <p>また、社会福祉協議会との間で経費負担を明記した開設、運営に関する協定を締結し、相互の連携・協力関係を揺るぎないものにしたい。</p>

論点	<p>庁内の防災体制の見直しや体制の強化を促進させるため、防災専門官の配置について年度内に解決すると9月議会で回答されたが、職務編成上どのように配置するのかその検討内容を問う。</p>
回答	<p>昨今、地震や土砂災害等の自然災害が頻発する状況となり、防災体制の強化の必要性が高まっている中、防災専門官の配置についても全体に指示が行き渡る体制にあることが必要であることは、十分理解しており、本市の実態に即しても、意義ある施策になると認識している。市全体の人員、組織体制との調整も必要であり、防災専門官についてどういう人材を充てるか、どういう組織体制にするかを部内で協議をして、今年中ぐらいにある程度結論を出さないとなかなか進んでいかないと思っている。早期にその辺を決めていきたい。</p>

## 2 観光の推進について

論点	観光ボランティア育成の現状をみて今後の具体的な戦略プランを問う。
回答	<p>観光ボランティア育成は、地域の団体の力を借りながら進めたい。また、おもてなしサポーターの育成事業もできれば来年度から実施したい。地域の団体は人材バンクと捉え、出番を作っていきたい。</p> <p>観光検定受験者の減少で観光に対する関心が低くなったとは考えていないが、関心度を上げる手法を検討中である。</p> <p>市長： 観光分野は、人生生きていることそのものを満足させてくれるような事業の分野であるから、本気になって取り組んでいかなければならないと考えている。</p>

論点	観光地と案内等の現状の把握状況と今後の計画を問う。
回答	<p>現状把握は、決して十分ではないと考えている。この把握は、調査を実施す中で台帳を整理していきたい。経年劣化や改修の必要な箇所、あるいは新規に設置が必要な場所、望ましい場所、こういったことをピックアップしながら、関係部署と協議を重ね、連携しながら整備を進めていきたい。</p>

## 3 山陽小野田市スポーツによるまちづくり推進計画について

論点	今年度から始まったこの計画の推進体制と進捗管理体制の具体策を問う。
回答	<p>市民との連携、学校や地域との連携、体育協会等スポーツ団体との連携、行政との連携の4つの連携を掲げてスポーツによるまちづくり推進委員会を開催し、推進計画の策定に引き続き幅広く意見を伺っている。また、スポーツ振興庁内等連携会議を設置し、関係13部署が一緒になって計画の具現化と進捗管理に努めている。</p>

論点	<p>「魅力あるスポーツイベント」として、サッカー、ゴルフ以外の具体的計画があるか。</p> <p>明治150年(幕末維新150周年)に向けて、本市はどのような計画があるのか。本市に生誕、明治維新における長州の傑物として活</p>
----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>躍された来嶋又兵衛の追悼剣道大会を「スポーツツーリズム」として捉え、具体化を図ってはどうか。</p>
回答	<p>市民ふれあいスポーツ大会、市民マラソン大会、市民ハイキング等の実施や、子ども対象のスポーツ少年駅伝競走大会、来年予定の小学生職人ナンバーワン決定大会等子どもの体力づくり、仲間づくりができるような事業も実施していく。また、引き続きパラサイクリングを支援して障害スポーツの振興と理解を深める事業を展開、併せて公営競技事務所と一緒に、スポーツによるまちづくりを進めて行く。</p> <p>本市の特徴的コンテンツを考慮中だ。本市は、来嶋又兵衛の生誕地であり、観光課と一緒に剣道というスポーツだけでなく、観光を含んだ大会に向けて考えていきたい。</p>